

この度は、小児の訪問看護に携わる看護師さんの訪問を中心に同行させていただき、高齢者の訪問看護と何が違うのか、どのようなケアを行い、どのように関わっているのか、実際の現場を通して訪問看護の勉強させていただきたいという思いで研修に臨みました。

同行させていただいた看護師さんは、対象である子どもの体調管理やケアはもちろんのこと、子どもの家族の体調を確認する、ケアや病気に対する相談を受けアドバイスをする、環境を整えるなど、子どもと子どもを囲む周囲全てに目や気を配り、包括的にケアをされていました。

同行させていただいた正直な印象として、小児と高齢者の訪問看護に、大きな違いはありませんでした。違いがないと感じたのはケアの内容ではなく、訪問看護の意識という部分です。対象となる方だけでなく、その方に関わる全ての人や環境にも配慮しケアを行なっていくという訪問看護の意識、子ども、高齢者と配慮しなければならない部分に違いはありますが、在宅生活を支えるという部分は子どもも高齢者も同じだと感じました。

小児の訪問看護は難しいと敬遠されがちだとよく耳にしますが、ぜひ多くの方にこの研修制度を利用して、小児の訪問看護に触れてみていただきたいと思います。小児の在宅医療の経験が豊富な看護師さんに同行できる機会は滅多にないと思います。触れること、知ること小児の訪問看護へのマイナスイメージは変わるのではないかと思います。

子どもはこちらの一挙手一投足に素直に反応し、純粋に全てを預けてくれます。それはとても愛らしくうれしいことではありますが、改めて自分の仕事の責任の重さを実感させられました。明日からまた気を引き締めて、在宅の現場と向き合っていこうと思います。

くれよんの皆様、すばらしい経験をさせていただきましてありがとうございました。

B事業所 Tさん